

年度末報告書（特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室）

- 提出日 : 2023年 4月 17日
- 事業名 : 被災者の心の健康を守る福島支援事業・心をつむぎ未来につながる社会の構築を目指して
- 資金分配団体 : 一般財団法人ふくしま百年基金
- 実行団体 : 特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
双葉郡から避難の比較的高齢者向けに「たらちねお話し会」を実施	1 回ごとの参加者の人数／参加者へのインタビュー	1 回 15 名以上の参加／参加者の日々の暮らしが穏やかになり楽しみも感じられる、などの声があること。	2024/3/1	<p>7月／8月／9月／10月／12月／2月：各1回ずつ。合計7回お話し会を実施した。会を重ねるごとに気持ちが打ち解けてきて、出身地域は違っていても、仲間としての認識を感じるようになってきた。心の融合が場の空気を和やかなものにしてくれるようになった。（お話し会の詳細については月次の報告書にある。）</p> <p>全体として、最初は探り合うように歴史の話を柱として語り合っていたが、この一年ほどは、国が入植者をどう扱ってきたのか、大熊町の今と昔の社会情勢を踏まえた比較など、同じ歴史の話でも、語る内容の深さが違ってきている。</p> <p>主となり語ってくれる鎌田清衛さんが80歳を過ぎ、高齢であることから、次年度からのお話し会はこれまでのようにコンスタントにできなくなった。今後は、たらちねで実施している</p>	2

				「歴史探訪プロジェクト」を軸に、この会が継続できないか検討中である。	
子どもを持つ母親世代に放射能の測定やお泊まり会実施の補助支援実施	放射能測定の実施回数／お泊まり会の実施回数／お泊まり会の参加者人数	放射能測定は1年に3回実施／お泊まり会は1年に3回実施／お泊まり会の参加者は1回20名	2024/3/1	<p>4月2回／5月2回／7月4回／8月3回／9月3回／11月1回／12月1回／1月1回／2月1回／3月1回</p> <p>合計19回にわたりコミュニケーションをとりながら放射能測定や大熊町の子どもの生活環境についての話し、お泊まり会の相談などを行なった。</p> <p>この中で、今年度は、大熊町の大規模測定も実施し、年間20ミリシーベルト基準の環境の全容を可視化することができた。たらちねとお母さんたちで協力し、大熊町役場への情報共有と除染の要請活動や、保護者への情報共有を行うことができた。今後の町の様子もお母さんたちと協力しながら注視していきたい。</p> <p>*データ共有時の保護者たちの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん方全員はみんなよかったと受け取ってくれた。 ・あるママは、「線量計を持って歩こうと思ってました。よかったです。」と言っていた。 ・会津で行う最後の修了式だったこともあり、テレビ・新聞などのマスコミが大勢きていた。 <p>顔見知りの朝日新聞と共同通信の記者と学校の先生方にもたらちねさんの資料をお渡しした。</p>	2

大熊町から避難している母親たちが実施する「お泊まり会」の実施回数	お泊まり会実施回数	夏休み・冬休み・春休みの年3回実施	2024/3/1	<p>8月／1月：それぞれ1回ずつお泊まり会を実施。11月は打ち合わせと情報交換の時間をもった。</p> <p>今年度、春休みはお泊まり会を休みにした。大熊町の「学び舎・ゆめの森」が次年度から大熊町で正式に開校するため、各家庭で引っ越しなどの作業があり落ち着かないためである。</p> <p>「大熊に帰る人、帰らない人、両方の人々が子どもの健康を守り心を繋ぐ」という目的のお泊まり会は、まだ大熊町民の参加者は少ない。しかし、徐々に興味を持つ人も増え、学校が別れる2023年度あたりから、動きに変化があるのではないかと予測している。</p>	2
大熊町から避難している母親たちが実施する「お泊まり会」の参加者人数	お泊まり会参加者数	1回20名程度の参加者	2024/3/1	<p>8月参加者数17名/1月参加者数15名</p> <p>当初予想した双葉郡から避難の人たちの参加もあるが、その他の県内からの参加も多い。リピーターもいる。相部屋で、手作り感のあるお泊まり会だが、子どもたちは喜んでおり、保護者も打ち解けた様子で参加している。双葉郡から町外避難している人たちは、どちらかという転居先の人たちにお世話になることが多いという印象だが、実際にはそうでもなく、このお泊まり会では、放射能汚染の話ができない通常に動いている地域の家族の参加が目立ち、面倒を見ることになっている。そこに協力があり、思いやりが生まれ、心が融合していく様子がある。</p>	2

<p>双葉郡労働者の健康不安相談受付の実施</p>	<p>相談受付人数／利用者へのインタビュー</p>	<p>相談受付人数は1年に36名／利用者の健康に対する意識の向上が確認できること。</p>	<p>2024/3/1</p>	<p>4月26名／5月17名／6月1名／7月7名／8月13名／9月14名／10月27名／11月5名／12月9名／1月3名／2月2名／3月11名 健康診断を実施。 合計135名 月により受診者人数にばらつきはあるが、全体にたらちねクリニックで検診を受ける習慣は広がりつつある。「以前は、自分の健康に関心がなかったが、ここで検診を受け始めて、健康でいたいと思うようになった」と話す人は多い。自分でお金を出して健康診断を受けることももちろんできるが、支援が入り、医療者から言葉掛けされながら受けることには意味があると思う。保養などもそうだが、最近、ようやく双葉郡からの避難者で、これまで支援の手が届かなかった人たちが、それらの支援を受けられるようになった。みなさん「自分たちにとって、ソフト面のケアがなされていなかったことに初めて気づいた。」ということをお話されている。賠償金をもらったり、自主避難者とは違う手厚い支援を受けているようであっても、実は、人の温かさに触れていないということがあるんだろうな、と感じることがある。</p>	<p>2</p>
<p>震災当時18歳以下だった人々への子どもドック手帳の配布の実施</p>	<p>配布部数／利用者へのインタビュー</p>	<p>1年間に50部配布／事故当時子どもだった人たちが、自分の健康に自信を持つことができるようになる。</p>	<p>2024/3/1</p>	<p>4月4冊/5月7冊/6月8冊/7月2冊/8月5冊/9月8冊/10月8冊/11月51冊/12月25冊/1月2冊/2月2冊 合計122冊配布。 「先生の手書きで感激」「子どもの健康が数値で確認できるので助かる」「継続的に受けていきたい」などの声が多かった。今年度は、自主避難をして福島県を離れているお母さん団体</p>	<p>2</p>

				<p>からも配布の要望があったり、パルシステム東京の会員さんのお子さんへの配布などの動きもあった。手帳を作成直後に「たらちね子どもドック手帳」と固有名詞をつけてしまったことが、手帳の広がりやを阻害してしまうのではないかと心配であった。しかし、それだからこそ、安心して手元におきたいという人もいて、今後もこのままのスタイルで広めていくことにした。県外避難者のお母さんたちは、「いつか、たらちねさんに検診を受けにいきます。それまで手帳を手元に置いておきたい。」と話していて、この手帳には、人の心が切れないように繋がっていく意味もあると感じた。</p> <p>さらに、子どもたちは、結婚を考える年齢の世代もおり、消極的ではあるが「福島差別」を耳にすることも増えた。その場でも、この手帳が役立てるよう尽くしていきたい。</p>	
たらちね心のケア事業の実施・子どもたちへの遊びでのケアと非言語マッサージのケア	利用者の人数／保護者へのインタビュー	1年間に100名の子どもの利用／母親が、心のゆとりを取り戻し、余裕ある子育てができるようになること。	2024/3/1	<p>4月13名／5月13名／6月8名／7月14名／8月11名／9月1名／10月4名／11月7名／12月16名／1月7名／2月16名／3月15名。</p> <p>合計124名利用。</p> <p>コロナ禍が完全に沈静化されておらず、今年度も、その影響を受けながらの事業実施であった。今年度からスタートの送迎（アウトリーチ）の効果もあり、親の都合が悪くても利用できる子どもが増えた。また、震災時に幼かった子どもたちも成長し、移動範囲も広がったことから、保養事業と心のケアのジョイント事業も実施できた。沖縄・球美の里の保養を身体的な放射能デトックスの役割だけでなく、心の安定と休養をもたら</p>	2

				<p>すプログラムとして利用することができた。沖縄・球美の里の事業は、2023年度からたらちねが管理する事業となる（これまでは、認定NPO法人沖縄・球美の里と連携）。震災から12年が経ち、子どもたちの心の問題が深刻化する中、保養事業を有効利用し、心を守ることに役立つ展開も強化したい。</p> <p>一年を通しての問題点として、生活保護を受ける家庭の子どもとの関係が絶たれてしまうなど、心配なケースもあった。次年度も引き続き、メールや電話を絶やささないなど、関係を繋いでいけるよう対応する考えである。</p> <p>保護者の声としては「子どもをゆとりある目で見ることができるようになった。」「子どもの成長が客観的に感じられるようになった。」など、余裕が出たという感想が多かった。</p> <p>次年度は、保養事業との連携に加え、担当スタッフも1名増えるので、できることも増えると考えている。</p>	
心の疲労が著しい子育てをする母親にポディワークによる非言語のケアを実施	利用者の人数／保護者へのインタビュー	1年間に36名の利用／保護者による子どもの心の理解が深まり、困難な社会情勢の中でも子どもの心が守られる世の中になること。	2024/3/1	<p>4月25名／5月18名／6月23名／7月25名／8月9名／9月13名／10月21名／11月7名／12月12名／1月7名／2月12名／3月14名</p> <p>合計186名</p> <p>ママカフェ実施回数3回</p> <p>前年度に続き、子どもたちよりも母親の利用の方が多かった。母親たちは、子育ての悩み、夫婦の悩み、自分の生き立ちの悩み、など抱えており、どれから整理整頓していったらいいか判断できない状態の人もある。</p> <p>今年度も、乳幼児精神科医の渡邊久子先生のサポートを受け</p>	2

				<p>て、母親たちとの個別面談を実施していただいたり、アドバイスをいただいたり力になってくださった。また、身体心理マッサージの徳山幸江先生にも東京での特別クラスで学時間をいただき、人間の心と体について深く知る学びを行った。</p> <p>保護者の精神状態が子どもたちの生育環境であり、それがより良いことは重要である。次年度は、虐待防止の観点からのママカフェ実施なども強化する予定である。担当者も増え、これまで考えていても実行できなかったことなど行なっていけると思う。</p> <p>お母さんたちの声としては「たらちねさんがあって助かった。」「行政の機関よりも自分たちに寄り添ってくれる」などが多かった。口コミで紹介があり尋ねてくるケースも増えている。さらに、父親の気持ちを聞く機会も増えてきた。</p>	
--	--	--	--	---	--

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値

3. (任意) 活動に関する報告

大熊町のお話し会や、大熊町から避難のお母さんたちとの連携事業など、最初は手探りで始めた。コミュニケーションをとるたびに、お互いの深い心の部分が変わり、探求したいことが一致してくる感覚があった。立場の違いからくる違和感も話し合いのお題として掘り下げていくと、もっと深い部分では繋がっていることがわかったり、発見の多い事業である。心がつながると、怯えがなくなり、自分の本当の気持ちや、守らなければならない子どもたちへのケアなど、それぞれが堂々とできるようになることも大きな変化だと感じた。大熊町の人たちは、賠償金をもらっていることが引け目になっていて、自分の気持ちを語らない傾向がある。しかし、この事業に関わった人たちは、真実を見つめ、自分の考えを発言するようになった。孤独ではないと感じることが、人にとって大事なことなのだと実感できた。

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況

- 自団体のウェブサイトに表示している 広報制作物に表示している
 報告書に表示している イベント実施時に表示している その他
→ 「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：

2. 広報

1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
ホームページ・Facebook・Instagram・twitter 子育てサポートのお知らせ掲載
2. 広報制作物等
無し
3. 報告書等
たらちね活動報告 https://tarachineiwaki.org/wpcms/wp-content/uploads/houkokukai_20230311_2_v2.pdf
4. イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）
・ ぶくしま百年基金の協力で行った勉強会
6月『福島県のこどもの現状』

講師：代表理事 江川和哉

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

9月『フリースクールについて』

講師：前北海

NPO 法人 ネモ ちば不登校・ひきこもりネットワーク

NPO 法人 フリースクール全国ネットワーク

10月『親の会について』

講師：樋口愛子

NPO 法人 クローバーの会@やまがた

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）

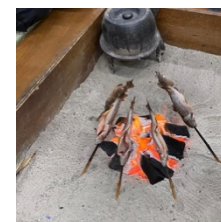
- ・大熊町の人々との話し会
- ・双葉郡の歴史振り返り
- ・大熊町ママたちのお泊まり会（夏・南会津にて）



- ・ママカフェの様子



- ・大熊町のママたちのお泊まり会の様子（冬）



あとリエでの遊びの様子



④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 整備中
2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
<input checked="" type="checkbox"/> 全て公開した <input type="checkbox"/> 一部未公開 <input type="checkbox"/> 未公開 → 「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
2. 内部通報制度は整備されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「はい」の場合の設置方法（複数選択可）： <input checked="" type="checkbox"/> 内部に窓口を設置 <input type="checkbox"/> 外部に窓口を設置 <input type="checkbox"/> JANPIA の窓口を利用
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：

4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
5. コンプライアンス委員会は定期的開催されていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査を実施 <input checked="" type="checkbox"/> 外部監査を実施 <input type="checkbox"/> 実施する予定がない → 「実施する予定がない」を選択した場合の理由：